

令和7年度常陸太田市原子力防災広域避難訓練

## 評価員評価結果

## I 評価員評価の概要

令和7年度常陸太田市原子力災害広域避難訓練において、一時集合所である機初小学校から、避難中継所兼避難所訓練の会場である里美小中学校まで、評価員が訓練参加市民に同行し、定性的評価を行いました。

併せて、各一時集合所、避難中継所兼避難所、高齢者福祉施設、市災害対策本部に配置した訓練統制員が訓練統制と並行して評価を行いました。

### 【評価員】

(株) 総合防災ソリューション 代表取締役 菊池 政巳 (機初小学校～里美小中学校)  
ほか、会場統制員7名

## II 評価員評価結果

### 1 一時集合所設置・運営訓練

#### (1) 機初小学校

##### ア 良好な事項

###### (ア) 一時集合所設置・運営マニュアルに基づく一時集合所の運営について

- 一時集合所要員は、会場設営後、一時集合所設置・運営マニュアルの確認と予行演習を経て受付準備を行っており、円滑な運営を行う上で非常に適切な活動でした。
- 避難者の受付が終わった後、一時集合所責任者から、避難者へ避難行程についての説明を行い、避難準備を進めることができていました。
- 一時集合所から市災害対策本部に対し、IP無線機を用いて車両の要請を行うことができていました。
- 避難者の把握・管理に際しては、一時集合所設置・運営マニュアルに従って、名簿やICカードを活用していました。これにより、滞りなく受付が進み、混雑を回避することができました。
- 避難者の動線はコーンとロープで一方向の誘導路が設定されており、避難者は迷わず進むことができていました。さらに、誘導員や案内員が積極的に声掛けを行うことで、より円滑な誘導を実現していました。
- 本訓練では避難バスの連絡代表者及び副代表者を避難者から選定していました。避難者は代表者及び副代表の指示に従い、整斉と行動することができていました。一時集合所要員から、代表者への依頼内容が明確であったことが理由の一つであると考えます。



一時集合所設置・運営マニュアルの確認と予行

###### (イ) 避難者からの質問や要望への対応について

- 一時集合所要員は、要望カードを用いた避難者からの要望に対し、丁寧に説明し、対応することができていました。

###### (ウ) 避難者の被ばく防護について

- 一時集合所においては、窓や扉を不要に開放することなく、屋内退避を適切に行うことができていました。
- 避難者の服装は、ほとんどの方が長袖、長ズボン、マスクを着用しており、被ばく防護において適切な服装でした。



要望カードを用いた一時集合所での要望対応

## (エ) 安定ヨウ素剤配布要員業務マニュアルに基づく安定ヨウ素剤の配付について

- ・安定ヨウ素剤配布担当職員は、避難者への安定ヨウ素剤の説明および配布を適切に実施していました。受領票の記入依頼や質問への丁寧な回答を通じて、避難者の不安解消に努めることができました。
- ・避難者への安定ヨウ素剤の説明に際して、パソコンの音声を活用し説明をしていたため、説明を担当する職員は避難者からの質問対応に専念することができていました。

## イ 改善を要する事項

### (ア) 訓練機会を活用した防災携行品の確認促進について

- ・避難者のうち、ザック等の携行をしているのは数名程度でした。携行品については持ち出し袋、持ち出し品の確認など訓練参加等の機会をとらえ、携行させることで意識の啓発が図れるものと考えます。

## (2) 佐都公民館

### ア 良好な事項

#### (ア) 一時集合所設置・運営マニュアルに基づく一時集合所の運営について

- ・一時集合所要員は、避難者に対して、次の行動等を分かりやすく伝えることができていました。
- ・一時集合所の内外において、避難者を滞留させることなく的確に誘導できていました。その結果、避難者は迷うことなく、スムーズにバス乗車準備を進めることができており、適切な対応でした。
- ・業務の節目や特定の事象が発生した際には、一時集合所責任者が IP 無線機を用いて、本部に遅滞なく報告できていました。



一時集合所入口における誘導

#### (イ) 避難者からの質問や要望への対応について

- ・一時集合所要員は、避難者の質問に対し、丁寧に説明し、対応することができていました。

#### (ウ) 避難者の被ばく防護について

- ・一時集合所への参集後、屋内退避などの防護措置が適切に講じられていました。公民館の入口扉を閉め忘れる場面が一部で見受けられましたが、全体としては概ね適切に運用されていました。
- ・避難者は、皮膚の露出を抑えるための帽子、長袖、長ズボン、マスクをほとんどの方が着用しており、被ばく防護の観点から概ね適切でした。

#### (エ) 安定ヨウ素剤配布要員業務マニュアルに基づく安定ヨウ素剤の配付について

- ・パソコンによる自動音声を活用して、避難者一人ひとりに対し、安定ヨウ素剤に関する説明を確実に行っていました。受領者全員に漏れなく説明が行き届いており、避難者からの質問に対しても適切に回答できていました。

## イ 改善を要する事項

### (ア) 車両駐停車位置の指定

- ・降雨の影響により、避難者の多くがそれぞれの自家用車で来場しました。その結果、一時集

合所の駐車場が満車となり、駐車場内へのバスの誘導に支障をきたしました。バスの停車・展開場所についてあらかじめ指定し、確保しておく必要があります。

### (3) 河内公民館

#### ア 良好な事項

##### (ア) 一時集合所設置・運営マニュアルに基づく一時集合所の運営について

- ・業務の節目や特定の事象が発生した際には、一時集合所責任者が IP 無線機を用いて、本部に遅滞なく報告できていました。
- ・一時集合所設置・運営マニュアルに則り、各種名簿を活用して避難者の把握・管理を適切に実施していました。手順通りの運用により、漏れの無い管理体制が維持されていました。
- ・避難者への説明については、全体的な事項は一時集合所責任者が、詳細な事項は各担当の要員が、それぞれ適切に対応できていました。



世帯代表者名簿を活用した  
受付

##### (イ) 避難者からの質問や要望への対応について

- ・一時集合所要員は、避難者の質問に対し、丁寧に説明し、対応することができていました。

##### (ウ) 避難者の被ばく防護について

- ・一時集合所要員は、窓閉めやエアコンの停止などを確認し、被ばく防護ができるよう的確に処置していました。
- ・避難者の服装については、被ばく防護の観点から帽子、長袖、長ズボンの着用を基本としており、各避難者の服装は総じて適正でした。

##### (エ) 安定ヨウ素剤配布要員業務マニュアルに基づく安定ヨウ素剤の配付について

- ・安定ヨウ素剤配布担当職員は、安定ヨウ素剤の配布前に自動音声を用いて適切な説明を行い、避難者への注意事項を徹底していました。寄せられた質問に対しても的確に回答しており、配布手順は極めて良好でした。



自動音声を活用した安定ヨウ素剤の説明

#### イ 改善を要する事項

##### (ア) 車両駐停車位置の指定について

- ・降雨の影響により、多くの避難者が自家用車で来場していました。その結果、駐車場が満車となり、バスの誘導に支障をきたす場面がありました。このように自家用車の流入が集中すると、バスの運行妨げや交通障害を招く恐れがあります。そのため、一時集合所における自家用車とバスの駐停車位置については、平素から明確に区分して定めておくことを提案します。

##### (イ) 人員・資機材の柔軟な運用について

- ・一時集合所の入口（玄関）に誘導員が配置されていなかったため、進む方向に戸惑う避難者が散見されました。一時集合所の運営においては、状況に応じて一時集合所要員の配置を変更するほか、椅子に案内表示を貼るなど、限られた人員や資機材で柔軟に運用する意識を持

つことが必要です。

#### (ウ) 避難者への説明の充実について

- ・逃げ遅れ避難者の受入れの状況があり、その到着を待って全体が出発する予定になっていました。しかしながら、避難者にその説明を十分にできてないように見受けられました。次の行動について適時に情報提供することで円滑な全体行動ができるものと考えます。

## 2 避難中継所運営訓練

### (1) 良好な事項

#### ア 受付・誘導について

- ・機初地区の避難者代表者は、避難退域時検査済証及びバス乗車名簿を避難中継所職員に渡すことができていました。また、受け取った職員は避難者割振表を用いて、円滑に避難所を割り振りすることができていました。各種様式の整備により、避難者代表者への依頼内容がわかりやすかったこと、避難中継所における手続きや手順が一時集合所から一連の流れになっていたことで、効率的に手続きを行うことができたものと考えます。

#### イ 避難先市町対策本部及び市災害対策本部との状況報告について

- ・避難中継所職員は、避難中継所から各市町対策本部へ避難中継所通過人数を報告することができていました。
- ・各市町から市災害対策本部に対し、避難中継所通過人数の報告がなされており、市災害対策本部において避難状況を把握する手順を確認することができていました。

### (2) 改善を要する事項

#### ア 誘導における積極的な声かけについて

- ・受付への積極的な呼び込みが少ないように感じました。手順のわからない避難者のため、積極的に案内する心構えが必要であると感じました。

#### イ 受入れ市町職員との連携による避難先調整手法の検討について

- ・避難中継所では、避難者の情報に基づき、町内会や家族構成を考慮して避難先の選定を行います。今回の訓練ではこの選定プロセスが省略されていましたが、避難中継所における受入れ市町職員と常陸太田市職員の避難先の選定・調整手法について検討し、訓練に盛り込むことを提案します。



避難中継所における案内前の避難者の滞留

### 3 避難所運営訓練

#### (1) 良好な事項

##### ア 受付・誘導について

- ・避難所の受付においては、世帯ごとに個票を配布・回収し、避難者情報の把握を確実に行いました。様式の事前整備や記入例の掲示といった工夫により、混乱なく円滑に受付業務を遂行できました。
- ・ICカードによる受付は、避難者が受付票に記入する手順を省略することができるため、避難者が滞留することなく、円滑に受付業務を行う上で有効な手段と考えます。



避難者による避難者個票の記入

##### イ 避難先市町対策本部及び市災害対策本部との状況報告について

- ・各市町から市災害対策本部に対し、避難所受付人数の報告がなされており、市災害対策本部において避難状況を把握する手順を確認することができました。

#### (2) 改善を要する事項

##### ア 避難者受付データの集計における課題と一元管理手法の検討について

- ・受付業務において、避難者個票（紙媒体）による受付数とICカード（デジタルデータ）による受付数を現場で集計することができませんでした。紙の個票とICカードのデータを即座に照合・統合する仕組みが欠如していたため、避難者総数の把握に時間を要しました。今後は、両データを現場で一元管理できる手法の検討が必要です。
- ・ICカードによる避難者登録（茨城県の実証実験）と避難者個票による登録情報について、これらを統合し管理・集計を行う手順や体制が不明確です。茨城県、常陸太田市、各避難所、さらには避難先自治体において、避難者情報を確実に共有・管理する体制を整備する必要があります。正式に導入する際には、この点について、茨城県や福島県、ならびに関係する受入れ自治体との間で、十分な確認・調整を行っておくべきであると考えます。



避難者個票受付における避難者の整理

## 4 高齢者福祉施設避難訓練

### (1) 良好な事項

#### ア 市災害対策本部との連絡調整について（サングリーンピア太田）

- ・サングリーンピア太田職員は、市災害対策本部からの電話の内容を正確に把握できており、良好な対応でした。また、双方向情報共有システムを使用したテレビからの情報も、速やかに確認するなど、複数手段を用いた情報収集が行われていたのは良好な対応でした。
- ・福祉車両の到着を受け、サングリーンピア太田職員が市災害対策本部に対し、特別養護老人ホームえみの里への避難開始を電話で報告しました。確実な連絡手段により、避難開始のタイミングを正確に伝達したことは、情報共有の観点から適切でした。
- ・避難準備に際し、サングリーンピア太田職員は市災害対策本部に対し、福祉車両2台の手配を電話で要請することができていました。



市災害対策本部との連絡調整

#### イ 屋内退避の実施について（サングリーンピア太田）

- ・サングリーンピア太田職員は、居室の外気取り込み口を閉鎖する際、入居者一人ひとりの自立度に合わせて助言を行うなど、入居者の特性に応じた適切な支援を行うことができていました。

#### ウ 入居者の誘導について（サングリーンピア太田）

- ・サングリーンピア太田職員は、入居者2名を福祉車両へ乗車させるため、3階食堂から1階エントランスまで誘導していました。その際、入居者の自立度に合わせ、無理のないペースで歩調を整えながら丁寧に声掛けを行っていました。入居者の身体特性や心理面に配慮した安全な誘導ができていました。
- ・サングリーンピア太田職員は、「現在の原子力発電所事故の状況」、「現在、屋内退避の指示がでていること」、「今後、避難の指示でるかもしれないこと」について、入居者に丁寧に説明していたことは、入居者に安心感を与え、行動の準備をするうえで、特に良好な対応でした。
- ・サングリーンピア太田職員は、原子力災害の発生に伴う特別養護老人ホームえみの里への避難について、入居者家族へ電話で速やかに周知を行っていました。避難先や状況をいち早く家族に伝達し、安心感を与えたことは、福祉施設として極めて良好な対応でした。



入居者の誘導

#### エ 入居者の引継ぎについて

- ・サングリーンピア太田職員は、避難先である特別養護老人ホームえみの里に到着後、施設長に対して到着報告と「避難退域時検査済証」の提示を確実に行って行っていました。併せて、福祉車両からの降車介助を入居者2名に対して丁寧に行うなど、一連の引き継ぎと移動支援を適切に行うことができていました。
- ・サングリーンピア太田職員と特別養護老人ホームえみの里の看護師・管理栄養士の間に入居者2名の健康状況等についての引継ぎは、文書（サービス付高齢者住宅グリーンピア太田の定



両施設職員による避難者情報の引継ぎ

型様式) と口頭で適切に行われており適切に対応していました。

- ・特別養護老人ホームえみの里の看護師・管理栄養士は、デイルームにおいて、入居者2名の体温、血圧、SpO<sub>2</sub>の測定を行い、入居者の健康状態を確認するとともに文書(特別養護老人ホームえみの里の定型様式)に記録しており、容体の管理ができていました。

#### オ 市災害対策本部との連絡調整について(特別養護老人ホームえみの里)

- ・特別養護老人ホームえみの里の施設長は、サングリーンピア太田からの入居者2名について、立退き避難の受入れが完了した旨を市災害対策本部へ直ちに電話報告していました。受入れ側の状況を正確かつ迅速に伝達したことは、適切な対応でした。

## (2) 改善を要する事項

### ア 備蓄物資の实地確認手順の習熟について

- ・サングリーンピア太田における備蓄物資の状況確認は、リスト確認により行われ、実地での状況確認は行われませんでした。実災害時には備蓄物資の被害や使用期限などを改めて確認する必要があるため、訓練においても手順を確認されることが望ましいと考えます。

### イ 高齢者福祉施設における情報収集手段の多様化について

- ・サングリーンピア太田職員の携帯電話には市行政情報アプリ及びいばらき原子力防災アプリがインストールされていませんでした。より多くの情報収集手段を準備しておく必要があります。

### ウ 福祉施設間の避難調整における詳細ケア情報の共有体制の構築について

- ・サングリーンピア太田職員は特別養護老人ホームえみの里に対し、電話で避難受入れを要請しました。しかし、提供された入居者情報は属性(年齢・性別・介護度)に限定されていました。今後は、既往症、服用薬、アレルギー、食事形態(刻み食等)といった詳細なケア情報をメール等の手段で共有できるよう、施設間の連絡体制を施設の避難計画において整理する必要があります。

## 5 市災害対策本部設置・運営訓練

### (1) 良好な事項

#### ア 関係機関への連絡員派遣要請と連携について

- ・本部長の判断に基づき、防災対策課長は、関係機関に対して連絡員等の派遣を要請することができました。
- ・日本原子力発電株式会社からの職員の派遣を受け、専門的見地から事故の状況について説明を受けていました。また、自衛隊、警察から連絡員の派遣を受け、関係機関との連携体制を構築することができました。

#### イ 災害対策本部会議の運営について

- ・市災害対策本部事務局の適切な進行統制のもと、円滑に市災害対策本部会議を実施し、会議の目的を達成することができました。また、市災害対策本部会議において、本部員は、本部長の意思決定を補佐するため、必要な情報を適切に報告することができました。



災害対策本部会議

#### ウ TV 会議による情報共有について

- ・内閣府やオフサイトセンター、茨城県とTV会議の接続を行い、接続手順を確認することができました。
- ・本部長自らTV会議に参加し、内閣府やオフサイトセンター、茨城県との情報共有や意思決定の流れについて確認することができました。



TV会議

#### エ 避難先市町村との連絡調整・要請業務マニュアルに基づく連絡調整・要請について

- ・避難先市町村との連絡調整・要請業務マニュアルに基づき、避難先の白河市、浅川町、棚倉町に電話・FAXを用いて避難者の受入れ調整を円滑に行うことができました。

#### オ 高齢者福祉施設との連絡調整について

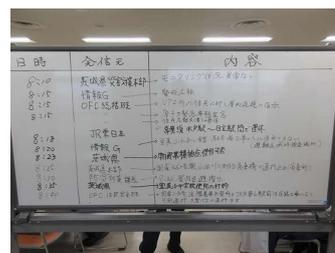
- ・調整グループは、電話・メールを用いた高齢者福祉施設への連絡手順を確認することができました。また、高齢者福祉施設で、バス配車システムを用いたバス要請ができないことを受け、電話での要請に基づき市災害対策本部で代替要請することができました。

#### カ 一時集合所からの要望・要請事項の把握と対応について

- ・一時集合所職員から、一時集合所において避難者から要望・要請のあった事項の報告を受け、適切に回答することができました。一時集合所と市災害対策本部との連絡・調整手順を確認することができました。

#### キ 避難状況の把握について

- ・避難先市町村との調整結果や避難状況の共有にあたっては、ホワイトボードへの記載の後、統括グループが時系列情報をパソコンで入力し、モニターへ投影していました。情報を一元的に管理する仕組みが的確に運用できており、本部長の意思決定を支える情報管理ができていたものと考えます。



ホワイトボードを使用した  
情報整理

## (2) 改善を要する事項

### ア 屋内退避時のニーズの把握に向けた相談・問い合わせ窓口の設置

- ・google フォームで作成した屋内退避チェックリストを用いて、屋内退避状況の把握を試みましたが、入力者は3件であり、屋内退避状況や避難者からの要望事項について把握することができませんでした。今後は避難者からの問い合わせ窓口を設置し、各種要望等に応じる訓練も検討されるよう提案します。

### イ 災害対策本部事務局の活動環境改善と機能強化に向けた訓練実施の提案

- ・本部員会議スペースと本部事務局の活動スペースを同一の会議室に設置し、訓練を行いました。互いの音声が交錯し、活動に支障が生じていたように見受けられました。また、本部事務局の活動を円滑に行うためには、ホワイトボード、地図台、調整卓等の設置が必要なほか、本部事務局の人数の増員も必要であることから、本部員会議スペースと本部事務局の活動スペースの別室設置を検討されるよう提案します。
- ・住民避難訓練とは別日に、本部事務局を対象としたブラインド型の図上訓練を要素訓練として行い、本部事務局各班の活動手順や機能的なレイアウトについて検証を行うことも一案と考えます。